

県連ニュース

2022年6月 NO-539号



『ヤマツツジ:大比叡』

滋賀県勤労者山岳連盟

2022年 6月号 目次

リレーエッセイ	2
案内・お知らせ	
2022年平和行進の計画	3
労山カレンダー写真募集	4
近畿ブロック自然保護委員会報告	5
ステップアップ比良案内	5
交流山行・野坂山地風力発電計画地観察会	6
交流山行・大御影山	7
ステップアップ登山講座受講生募集	8
報告	
雪洞講習・福井嶺北・荒島岳	9
読図・比良滝山・寒風峠周回	10, 11
初級登山教室・クライミング体験	12, 13, 14
雪山基礎講座・鹿島槍ヶ岳鎌尾根	15, 16, 17
ぐうたら会長のつぶやき	18
6—8月 行事予定表	19

表紙の写真：『ヤマツツジ:大比叡 2021.5.14 撮影』

撮影者：比良雪稜会 小原邦雄

東海道興津宿 清見寺（せいけんじ）

比良雪稜会 堀池差英子

「清見寺」は静岡県清水区にある寺院で、広島県福山市の「鞆福禅寺」、岡山県の「牛窓本蓮院」と並んで朝鮮通信使遺跡に指定されています。朝鮮通信使は、徳川幕府の招きで、朝鮮から派遣された使節団で 300 人から 500 人の行列が 8 か月以上かけて江戸まで往復しました。徳川政権と外交関係があった国は朝鮮と琉球だけで、幕府は沿道諸藩にも命じて、お金も気も使って朝鮮通信使を精いっぱいもてなしました。前記の遺跡 3 か所は、通信使の立ち寄り所で、天下の絶景。

興津宿は、広重の浮世絵で有名な「東海道五十三次由比宿」の西隣の宿で、駿河湾と富士山、三保の松原一望でき、家康もたびたび訪れたということです。

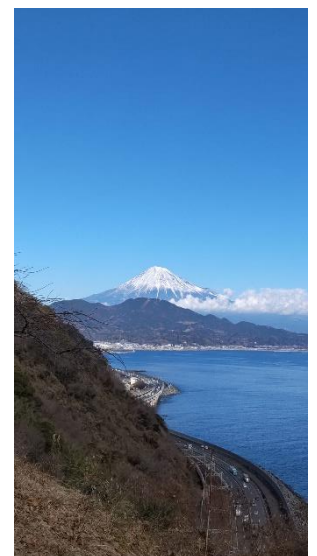
清見寺には朝鮮通信使一行が残した「書」が扁額となって、たくさん掲げられています。朝鮮通信使一行を漢詩や書、絵画を良くする知識人として日本人たちが交流を楽しみにして、行く先々の沿道に一目見ようとする人が大勢出ました。「書や絵」をかいてもらったり、また、音楽隊の楽器、踊り、衣装などの風俗に興味を持ち、喜んで真似したりと大変友好的に行われていました。

私は今年 4 月の良く晴れた日、清見寺に行きました。眼下に駿河湾、JR 東海道線をまたいだ向こうにある山門横の満開の桜、本堂で朝鮮通信使の残した多数の扁額を見ていると朝鮮通信使の人たちがこの絶景の中で優雅に漢詩を詠んでいる姿が自然に浮かんできます。

が、突然、思ったことは、「第一回の朝鮮通信使が実施されたのは文禄慶長の役が終わって 10 年も経っていなかった。豊臣秀吉が朝鮮の奥深くまで攻め入り、人も国土もめっちゃめっちゃに攻めた。家康は朝鮮に出兵はしなかったけれども、豊臣政権の五大老筆頭として責任ある立場にあった。家康は政治の実権を握ると即、周りの国と仲良くすることを実行して行って、こんなに上手くスムーズに出来た。凄い。」スムーズなんて言ったら対馬藩の人に怒られますね。対馬藩の皆さん、ご苦労様でした。

ロシアとウクライナの事を思います。侵略した方とされた方、10 年後に仲良く出来た歴史がここに 있습니다。必死で関係修復をして友好関係を築いたという歴史を自分たちの先祖が持っているんやという感慨を持った旅でした。*今、清見寺から見る駿河湾の絶景は港の施設でほぼ目隠し状態です。1964 年開通した東海道新幹線のトンネル工事で出た土砂で海岸が埋め立てられ港が作られました。風光明媚より経済成長という時代だったのですね。リニアが南アルプスを貫いてしまったら、出る土砂はどこへ行くのでしょうか。

*興津宿から由比宿まで約 10 キロの旧東海道ウォーク、途中のさった峠から広重の浮世絵と同じ構図で富士山が見られます。



今年で 65 回目となる原水爆禁止国民平和行進の滋賀県内の日程をお知らせします。

6月 2022年 平和行進の計画

2022.5.14 現在

(木)	米原 長浜	13:45 関ヶ原町役場前で岐阜から滋賀への引継ぎセレモニー 15:30 米原市役所前で集会 16:00 米原市内行進 17:30 長浜市役所前で集会 18:00 長浜市内行進
17 (金)	高島	11:30 新旭球場駐車場集会 高島市役所まで宣伝行動 12:30 高島市役所訪問 セレモニー
	彦根 愛知犬上	9:00 彦根市役所出発セレモニー、行進 10:28 彦根口駅発 10:43 豊郷駅着、行進出発 11:00 豊郷町役場休憩 宣伝カー 11:45 愛荘町役場
	東近江	14:00 東近江市役所訪問
18 (土)	志賀	10:00 平和堂和邇店付近でスタンディング
	近江八幡	10:00 近江八幡市役所玄関前で集会 市長あいさつ 10:40 市役所出発、行進 11:00 近江八幡駅 解散 宣伝カーでアピール
	甲賀 湖南	9:00 甲賀市役所 セレモニー 甲賀市内パレード 11:00 湖南市役所 セレモニー 周辺でスタンディングアピール
18 (土)	日野	12:45 日野町役場前で集会 13:00 日野駅まで行進 その後 竜王町役場を訪問 未定
19 (日)	野洲 守山	9:30 野洲市訪問 10:00 守山市役所訪問 未定
19 (日)	草津	11:00 ~12:00 草津駅東口で宣伝行動
20 (月)	栗東 草津	9:00 栗東市役所前でセレモニー 9:30 栗東市役所 行進出発 11:30 草津市役所前でセレモニー その後 JR で草津駅から石山駅へ 13:00 石山駅で大津へ引継ぎ
	大津	12:30 石山駅で署名宣伝行動 13:00 草津からの引継ぎ集会 13:30 石山駅北口ロータリー 行進出発 16:00 大津市役所到着 16:30 市役所前でセレモニー
21 (火)	大津	10:00 県庁玄関でセレモニー 10:15 行進出発 11:12 京阪「上栄町駅」乗車 11:20「追分駅」行進出発 12:30 ラクト山科公園で京都への引継ぎ集会

※ 日野、野洲、守山は、日時、内容とも未定(記載されているのは2021年の内容)

※ 予定は変更される場合があります。詳しくは西野明(090-1711-6646)まで連絡ください

2023 年版

労山カレンダー 写真募集

今回も労山会員の山写真でカレンダーを作ります。

あなたが感じている山・登山の魅力を写真で伝えてみませんか。

地元の山、旅先の山、雪山、高山、水、草花や木々、山小屋、季節の移ろい……

全国からの応募をお待ちしています。

応募規定

資格 労山会員 一人5点まで

写真 横位置のみ。合成不可 画質は、1000万画素以上(縦2500×横3500ピクセル以上)

データ形式は、JPEGまたは、TIFF

写真はトリミングさせていただく場合があります。

カレンダー(B4 半・中綴じ)掲載時の仕上がり寸法257mm×364mmです。

募集期間

6月25日(土)必着 採用された方には謝礼2万円。

すべての応募者に労山カレンダー1部進呈

応募方法

WEB応募

<https://ws.formzu.net/fgen/S58732460>

郵送

CD-R 又は USB で送付。フィルムカメラでの作品はデータ又は A4 サイズのプリント写真で送付。

氏名・所属会・地方連盟・住所・電話番号・メールアドレス、各作品名・被写体の山(山域)・撮影年月日を明記 してください。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24 日本勤労者山岳連盟

※返却を希望する場合は、返却先を記載して切手を貼った返信用封筒を同封下さい。

参加) 大阪府連・京都府連・奈良県連・滋賀県連

不参加) 兵庫県連・和歌山県連

大阪府連

- ・恒例のクリーンハイクを今年も実施するが大阪府では、コロナ感染の拡大次第ではやり方を検討。

京都府連

- ・北陸新幹線の京都府内北山等の工事について
中止等の要求の署名活動を大文字山登山路や京都駅前で行い、約一万筆集まった。丹後半島での巨大風力発電についても中止を求めて運動している。

奈良県連

- ・奈良県でも平群町などで山を一面太陽光発電にしたことや奈良県内で山や野で巨大太陽光発電がどんどん設置されていることに対して異議。

意見として、他の委員から

どんどん進む地球温暖化に対して、巨大風力発電や巨大太陽光発電はやむを得ないとも思うこともあると表明。

滋賀県連

- ・美浜新庄風力や余呉南越前風力発電の計画、はたまた、福井県今庄付近でさらに二カ所巨大風力計画があることを報告。美浜新庄での反対運動や事業者の意見縦覧等詳細を報告しました。
- ・7月9日10日の全国自然保護講座についても説明。

<案内>

ステップアップ比良(個人山行) 6/25(土)の案内

JR 山科駅 6:34⇒7:22JR 近江高島駅 7:27(バス)ー黒谷 8:00...シロタ谷峠分岐 8:50...シロタ谷峠 9:30...笹峠 10:40...滝谷ノ頭 12:00...12:50 蛇谷ヶ峰 13:10...ボボフダ峠 14:00...15:00 畑 15:22 発(バス)ー15:58JR 近江高島駅・解散

※場合により 笹峠 10:40...11:30 横谷峠 12:00...13:00 畑 13:54 発(バス)ー14:17JR 近江高島駅・解散の場合あります。

申し込みは豊田 toyoda@eos.ocn.ne.jp 6/15 日までにお願いします。

交流山行（滋賀山友会）

野坂山地・風力発電計画地における観察会のご案内

尾根に群生するブナの森の緑の中を、講師の先生のお話を聞きながら歩いてみませんか？ブナ巨樹探し・着床する稀少植物発見、さらに環境アセスメントの仕組みについての学習など、盛りだくさんな内容を予定して下さっています。是非ご一緒に！！

福井県三方郡美浜町にある野坂山地の野坂岳～庄部谷山の尾根筋には、胸高周囲 300 cm 以上、300 年生きてきたブナの巨木が 50 本以上あります。このブナの巨木が、風力発電計画事業の下に伐採されようとしています。

福井県・滋賀県・岐阜県境のブナの森は 自然豊かでイワナや山菜、キノコをはじめとして古来より地域に恵みをもたらしてきました。またイヌワシ・クマタカ希少な生息地であり、サシバ・ノスリ・ハチクマ等猛禽類の渡りの経路でもあります。電力を得る為にこうした貴重な自然と巨木が伐採され破壊されようとしています。

再生可能なエネルギーへの解決策は多々あります。現在まで人を含む動植物、営々とその「生」を育んできた豊かな自然が、ウインドファーム事業により破壊されれば、再生は極めて困難になります。この機会にみんなで考えてみませんか。

★予定日：6月19日（日）・予備日 7月3日（日）

★集合時間・場所：○7：00 熊川宿道の駅 ○8：00 美浜町新庄 松屋 喫茶みろく付近

★コース予定：栗柄関所跡＝（林道・車）＝標高 840m のピーク～芦谷山方面の尾根（往復）

★申し込み先：滋賀山友会・倉内光代

- ・電話：080-1425-8167 、メール：k-kurauchi@za.ztv.ne.jp
- ・予備日が参加可能かどうかもおご連絡ください。
- ・締め切り：6月10日（金）
- ・定員：先着20名

講師・青木繁さん：大津市出身。県立いきものふれあいの里（閉鎖）館長、県生きもの調査専門員などを歴任。現在は兵庫県丹波市で自給自足生活を目指して生活をしておられます。

長く滋賀県の植物、自然と関わり、著書に「高島の自然」、「トチノキは残った 山里の恵みの自然死と暮らし」などがあります。（67歳）

2022年 6月号

交流登山

- ◎「交流登山」とは・・・県連の各会の枠を超えて、他の会の会員と楽しく交流を深めながら山行に参加できるシステムです。（但し、この指定された山行のみとなります）
- ◎「参加申込み方法」・・・行ってみたい山行の申込先へメールで申し込むだけです。
申込みは⇒「所属会名・氏名・住所・生年月日・ケータイ番号・血液型」が必要です（登山計画書所定項目）

登山日程	6月19日(日) 予備 7/3		企画会名	滋賀山友会（倉内）
山域・山岳名	野坂山地（風力発電計画地における観察会のご案内）			
集合場所・時間	熊川宿道の駅 午前7時			
山行時間	約6時間（下山時間：午後3時頃）			
参加受付	滋賀山友会 倉内 まで	メール ケータイ	k-kurauchi@za.ztv.ne.jp 080-1425-8167	
受付締切	6月10日(金)まで ※下記の申込み者情報を厳守願います			

登山日程	6月4日(土)		企画会名	彷徨倶楽部（信森）
山域・山岳名	大御影山（おおみかげやま・標高 949m・滋賀と福井の県境域）			
集合場所・時間	JR 堅田駅 午前7時			
山行時間	約6時間（下山時間：午後3時頃）			
参加受付	彷徨倶楽部 谷内 まで	メール ケータイ	tomo-hira3rose@rouge.plala.or.jp 090-2280-9979	
受付締切	5月28日(土)まで ※下記の申込み者情報を厳守願います			

※**申込時の注意**—申込は必ず**メール**で願います（内容の問い合わせは、ケータイでも結構です）

① 所属会名 ② 氏名 ③ 住所 ④ 生年月日 ⑤ 携帯番号 ⑥ 血液型

※申込者の情報は、登山計画書の作成に必要となりますので、間違いのないよう願います。

一步先の山へ！

--- ステップアップ登山講座 2022 受講生募集 (第2報) ---

この講座は、自分の技術や経験ではちょっと不安、でも色々な山に登ってみたい。そんな「一步先の山」を目指す人を対象にしています。山は一期一会。山は逃げます。「登りたい」と思った時がその時です。心に残る山登りを体験して人生を豊かなものにしましょう。本講座は大きな事故もなく6周年を迎えました。今年度も新型コロナウイルスの感染予防に配慮し、安全で楽しいワクワクする山を目指します。

■新型コロナウイルス感染予防対策

1. オリエンテーション/山行準備会 LINE を利用して非対面 (ON LINE) で行います。LINE 未経験の人には使用法をお教えします。
2. マスク、手袋、消毒薬 講座で用意しますが、原則受講生各自で用意をお願いします。
3. 個人用テント 三密を避けるため個人用テントを使用して頂きます。安くて良いテントがあります。テント購入に関して相談に応じます。
4. 食事 感染予防に配慮した共同食です。詳細はオリエンテーションで説明します。

■日程と山域 (案) :

No	日 程	山域/内容	
1	5/30 (月) 20:00~	ON LINE オリエンテーション	
2	6/11-12 (日)	八ヶ岳・天狗尾根~赤岳	岩稜から八ヶ岳の最高峰へ
3	7/29夜-31 (日)	北アルプス・餓鬼岳、唐沢岳	コマクサの群生を訪ねて
4	8/26夜-28 (日)	奥秩父・笛吹川東沢釜ノ沢	田部重治が遡った美溪
5	9/22夜-25 (日)	北アルプス・北穂池~槍ヶ岳	秘境の池から槍ヶ岳
6	10/7夜-10 (月、	越後・荒沢岳~八海山	紅葉と越後の岩稜
7	11/4夜-6 (日)	南アルプス・大無間山	南アルプス深南部の展望台

■講 師：秋田誠 (彷徨倶楽部)、クライミング研究会々員および外部講師

■講習内容：

1. 無雪期ピバーク技術
2. 岩稜通過技術、ロープワーク
3. 山の気象、読図、報告書作成

■募集人数：8名程度

■受講料：

1回 2,000円、テキスト、資料代を含みます。この他、実技講習の交通費、食費が必要です。申込金は要りません。

■申込み/問合せ：

TEL 090-3727-3721 (秋田)
 (18:00-21:00 にお願ひします。)
 ショートメールも可
 e-mail dekameno@gmail.com

■申込期限：5月29日(日)



千畳のナメ/奥秩父・笛吹川東沢釜ノ沢

昨年4月に続いて北アルプス遠見尾根で雪洞講習を予定したが、年度始めの何かと忙しい時期ということもあってか受講者はひとりだけになってしまった。それならわざわざ遠出しないで近場の山で講習しようということになり、福井嶺北・荒島岳に向かった。

さすがに4月中旬ともなると豪雪で知られる荒島岳の山麓もすっかり春めいて一片の雪さえ見当たらなかった。しかし山頂へ続く稜線はまだ真っ白であった。これなら雪洞を掘るのに十分な積雪が期待できそう。好天が約束された週末なのですでに駐車場はあらかじめ登山者の車で埋まっていた。片隅になんとか1台分の余地を得て出発の準備にとりかかった。先着の車はいずれも早出の日帰り登山らしく、陽が高く昇り始めた駐車場には私たちの他に誰もいなかった。今日はシャクナゲ平まで標高差850mを登るだけ。昼過ぎには雪洞講習を始められるだろう。60Lザックを背負うのは1月末の権現岳以来だ。久しぶりの重いザックに山に入る充実感を感じながら乾ききったスキー場跡のスロープをのんびり登った。

標高600m付近で醜悪な姿を晒すスキーリフトの残骸を見送り、シャクナゲ平に向かって南行する尾根に乗った。1,000mを越すとようやくぬかるんだ登山道から解放され残雪に刻まれたトレールを踏む。さらに高度を上げて行くと辛抱強く芽吹きを待つブナ林の登りとなる。シャクナゲ平への急登にかかると、三々五々下ってくる登山者とすれ違った。若い女性2人組が私のザックにくぐられたスコップに目をやって「何に使うんですか?」と問う。雪洞を掘って泊まるのさ、と答える。「セツドウ?」。初めて耳にする外来語のように意味不明の様子である。思わぬところで雪洞講習が始まった。

シャクナゲ平の分岐から100mほど小荒島岳側に戻ると稜線の東側に厚い雪堤が残っていた。雪洞を掘るには少なくとも2.5mの積雪が必要だが雪堤の厚みは優に3mあり十分条件を満たしていた。効率よく雪洞を掘るには、

- (1) 雪面を2.5mほど縦に掘り下げ、二人並んで楽に作業できるよう2mほどの間口を確保する。
- (2) 二人並んで横穴を掘る。掘る者と雪を捨てる者のコンビネーションが重要。ひとりで長時間頑張らず頻りに交代する。ツェルト等を敷き、掘り出した雪をそこに滑らせて捨てるが良い。
- (3) 雪はブロックで掘り出す。雪ノコで四隅に切れ目を入れ下からスコップですくうとブロックにしやすい。スコップですくう際、手前下向きに傾斜をつけるとブロックはスムーズに転がり落ちる。
- (4) 居室を掘り天井を滑らかに仕上げたら、入口を残し掘り出したブロックで開口部を塞ぐ。この際、少し隙間を空けてブロックを積み、後で隙間を雪で埋めると作業が早い。
- (5) 雪洞が埋没した場合に備えスコップと雪ノコは雪洞内に収納する。
- (6) 雪洞の入口を風向きに対して直角に設けると入口が雪で埋まるリスクは低くなるが、雪洞構築に適した積雪場所との兼ね合いもあるので実際には難しい。

1時間半ほどで二人用の雪洞を完成させたが、掘り始めには分からなかった太い灌木が埋まっております。こぶる居住性が悪い。掘る位置を1mほどずらすべきだった。後の祭りである。結局、雪洞は荷物置場として利用し持参したテントを張って快適なひと夜を過ごした。

翌日は不要な装備を雪洞に残し軽装で山頂に向かった。モチガハナを急登すると眼下に残雪を抱く越前の山々が広がった。早朝の山頂には先行の登山者がひとりだけ。手を伸ばせば掴めそうに青空が近い。大長山、赤兎山の向こうには白山が白鯨のように巨大な山容を横たえていた。春山はなんと素晴らしいことか。

日 程：2022年4月9日～10日（日）

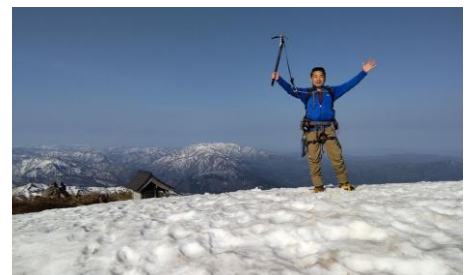
メンバー：福井敏文（滋賀山友会）、秋田 誠（講師、彷徨倶楽部）

タイム：

4/9（土）旧勝原スキー場8:30 -- シャクナゲ平13:30（泊）

4/10（日）シャクナゲ平6:30 -- 荒島岳7:40～8:30 -- シャクナゲ平
9:20～12:00* --- 旧勝原スキー場14:30

*：雪上ロープワーク訓練実施



荒島岳山頂、後は法恩寺山

【報告】比良滝山・寒風峠周回／2022年度初級登山教室-読図山行

【日程】 2022年4月16日(土) 晴

【講師およびスタッフ】 T内(彷徨倶楽部)、N森(彷徨倶楽部) K嶋(比良雪稜会)、K口(滋賀山友会)

【受講生】 T本(滋賀山友会)、S水(比良雪稜会)、N村(比良雪稜会)

【コースタイム】

登山口駐車場(9:00)・・・楊梅の滝分岐(9:20)・・・楊梅の滝(9:30)・・・楊梅の滝分岐(9:37) [5分休憩]・・・涼峠(10:15) [10分休憩]・・・オトシ出合(10:40)・・・662ピーク(11:40) [35分休憩]・・・滝山山頂(13:00) [5分休憩]・・・寒風峠(13:40)・・・オトシ出合(14:05)・・・標高500徒渉点(14:10) [5分休憩]・・・しし岩対岸(14:55)・・・しし岩(15:25)・・・楊梅の滝分岐(15:50)・・・登山口駐車場(16:00)

【講習の内容】

楊梅の滝入口から涼峠、オトシ出合からバリエーションルートを通って、滝山南西の662ピーク、滝山までのルートを読図しながら周回山行した。

登山口から200メートルほど進んだところで、地図での現在地と距離感を確認した。さらに進んで、楊梅の滝と登山道の分岐を過ぎたところで、尾根との位置関係からルートを外れた事を確認。滝を往復して、登山ルートに戻りしばらく進んだところで、標高と地形を見て現在地を確認した。また、涼峠手前でピークと鞍部の位置から現在地を特定するなど、地形を見ての読図を体験した。

涼峠で休憩・打ち合わせをして、そこから受講生N村がリーダーとなって、オトシ出合への登山道を進み、662ピークへの取り付き点を探索した。一般登山道ではあるが、どこから662ピークに進めば良いかの判断は難しかった。

オトシ出合を過ぎたところで、リーダーを受講生S水に交代して、現在地と方角を確認して662ピークへと進む。目的地へ向かって歩き始めるが、しばらく進むと川に阻まれたため登山道へ戻り、オトシ出合付近から再度662ピークを進む。道のない急坂を登り藪を歩いて、高度と現在地を確認。小さな尾根や谷でわかりにくい所もあったが、数回現在地と方向を確認しながら、北寄りの尾根に取り着く。ここから踏み跡があり、少し開けた尾根をたどって662ピークへ着いた。

662ピークで昼食休憩後、受講生T本がリーダーとなって662ピークから滝山まで稜線を通って進む。北の方角に下ってから次のピークを登り返しまた下って次のピークへ進む。ここで現在地と方向の確認。さらに北に進んで標高650メートルを過ぎた小ピークで再び現在地と方向の確認。幅の広い稜線に踏み跡がありしばらくそこを進むが、稜線の一番上をつないで滝山に向かうルートに移行。比較的に見通しがよく地形の特徴も把握しやすいルートでスムーズに滝山に到着した。

滝山からは再び地図とコンパスで方向を確認し寒風峠に進み、オトシを経て涼峠の手前の渡渉点から楊梅の滝方向へ滝川沿いのバリエーションルートで向かう。途中数回渡渉しながらしし岩に登る。本教室で登攀予定のしし岩の説明を聞き、急坂を下って登山口駐車場まで下山した。

朝からは強い北風と小雨が吹き付けるやや寒い天気だったが、昼から晴れてきてツツジやおオカメの木などの花を見ながら、楽しい春の読図体験山行となった。

参加者のコメント

T内：地図と磁石は特性や使い方を机上で理解した上で実際に使うのが普通ですが、まず使ってみて後でそのやり方が正しかったか検証し、理解を深める方法もあります。基本は目標地点に向かって進みますが山では沢や尾根などが入り組み、真っ直ぐに進めません。周囲の地形を判断した上で右へ左へ進んで行くのが登山道のないルートファインディングの難しいところです。また、私自身はオトシからしし岩に向かう沢筋のバリエーションルートを先導しましたが急斜面を下る箇所もあり、他により安全なルートはあったはずと反省しています。今後も事故のない楽しい教室を続けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

N 森：道迷いを防ぐためには、常に現在地を把握すると同時に、これから進むルート of 地形や状況を予測しておく必要があります。地形図はそのための様々な情報を与えてくれます。最初は難しいと思われるかもしれませんが、慣れれば地形図と現実の風景が結びついてくるようになりますので、山に行くたびに練習してみてください。その上で、GPS でピンポイントで現在地が確定できれば、鬼に金棒です。なお、足場の悪い急傾斜地では足元ばかりを気にしがちですが、上からの落石などにも十分に注意しておく必要があります。

K 嶋：山岳遭難事故の原因として、道迷いによるものが最も多いので、それを減らすには地図読みが出来るのが一番だと思います。中々一度の講習だけで理解出来るものではないので、山に入った際には休憩時や分岐点で高度や周りの地形の状況から現在地の判断をする練習をすれば、段々と理解できるようになるのかなって思っています。

スマホのGPS を利用したアプリもバッテリー切れの心配や、GPS のロストもある訳で100%では無いので、地図読み出来れば最高のリスク回避が出来ると思います。

K 口：最近GPS を使っている人を良く見かけますが、基本はやはり地図読みになると思います。地形を読みルートを考える。これが出来る様になると山が違って見え、登山も今まで以上に楽しくなるのではないのでしょうか？今回は皆んなで考えながら楽しく地図読み出来ましたが、1人でも読図出来る様に更に勉強して行きましょう。

S 水：コンパスの使い方もおぼつかない中、コンパスと地図を使っての読図体験。662 ピークまでを先頭に立って歩いたが、余裕なくコンパスの示す方向を突き進んでしまうこととなり、もう少し周りを見られていれば、木々の間を突進することもなかったと反省する。今、自分がどの位置にいるか、現在地がわかっていなければいけないが、今回のようにルートのないところではとても難しかった。地図を見て地形や高度を把握し、周りの景色なども見ながら進む方向が判断していけるように、まずは地図に慣れるところから始めたいと思う。

N 村：地図読み苦手で、自分には出来ないと思って個人の登山では、全く取り組んでできませんでした。地図の見方、コンパスの使い方もきちんと理解しないまま、リーダーとして先頭を歩くのは大変緊張しました。ご迷惑おかけしたと思います。今まで周りの地形意識して、歩くことはありませんでしたが、これからは、地図と周りの景色を見比べながら、歩こうと思います。

T 本：これまでは携帯のGPS は見ても、地図やコンパスはほとんど使わなかった。どちらかという道標と登山道に「歩かされている」という感じだったと思う。今回の教室で、周りの地形やルートを地図で確認しながら進む事の大切さや面白さを体験することができた。今後はもう少し頻りに地図を読みながら、自分が歩いているコースの特徴を把握して、楽しみながら山を歩こうと思った。



<2022年度初級登山教室報告> 京都北山・金毘羅山／クライミング体験

日 時 2022年4月23日(土) 曇り時々晴

講師及びスタッフ：T内(彷徨倶楽部) S森(彷徨倶楽部) M田(湖南岳友会) K口(滋賀山友会)
K嶋(比良雪稜会) G阿弥(比良雪稜会)

受講生：T本(滋賀山友会) S口(滋賀山友会) N村(比良雪稜会) S水(比良雪稜会)

行 程：寂光院駐車場(9:00)～江文神社登山口(9:30)～北尾根の取付(9:50)～クライミング開始
(10:10)～北尾根(13:30)・昼食(14:00)～Y懸の頭(14:40)・懸垂下降体験～下山開始
(15:30)～江文神社(16:00)～寂光院駐車場(16:55)今日の振り返り・反省(17:20)

講習の内容：9:35 登山口でクライミングの装備を装着。ハーネスを付け、左右にカラビナを取り付ける。ノーマルカラビナ2個と60センチスリングを使ってクイックドロワーを3セット作り、同様に装着。ヘルメットを被る。クライミング中に落ちると事故につながるため、ザックのサイドポケットにはペットボトルなど入れず、ザックの外回りにもものを付けないように注意を受ける。身支度を整え北尾根の取付まで移動。

北尾根の取付に着きクライミングシューズに履き替え、ロープを出して準備。受講生と指導者で3つのグループに分かれて登る。

(①T内・M田・S口・N村 ②K口・K嶋・S水 ③N森・G阿弥・T本)

登る前の注意として、登っていないときはスリングを使ってセルフビレイを行い安全確保すること。荷物が下に落ちないようにすること。落石することがあるので岩の下で休憩しない。岩に抱きつかず、体を少し離して三点支持で登ること。登るときは素手で岩を直接接触。ハーケンには指を入れないようにすること等指導を受けた。グループ①からクライミングを開始。待っている間に他の先行パーティからの落石を受け、N森氏のヘルメットに当たるというアクシデントがあり、ひとつ間違えると大きな事故につながることを目の当たりにし自身も上部からの落石に気を付けなければと思った。その後はグループごとに行動。

グループ②ではK口氏がリードで登り、K嶋氏がビレイ。続いてS水がセカンドで登り始める。どこを掴んだらいいか、足をどう置けばいいか考えながらもタイミングよくロープを引き上げていただき、一歩ずつ登ることができた。2ピッチ目は最初の足がかりが難しく、一度ずり落ちてしまったが、何とか足の置き場を見つけて登った。途中、左側に行ってしまう戸惑ったが、右に戻るとクイックドロワーを見つけたことができた、2ピッチ目の方が難しかったように思う。

北尾根の途中で昼食をとった後、Y懸の頭まで登攀。Y懸の頭ではグループ①がすでに2か所の懸垂下降準備を終え、受講生が体験を始めていた。S水もビレイデバイスの取り付けを指導いただき、バックアップを取って懸垂下降に挑戦。体をロープに預けてできるだけ体を伸ばしてアドバイスに従って体験。その後、違うルートで再度体験した。時々、降りる方向を確認するようにということだったが見ることでバランスを崩して体が揺れてしまった。

他のパーティもいて待つ時間があり、グループ③とは一緒に活動できなかったのが残念だった。

下山後、駐車場で今日の感想や反省を行う。事後の指導として、クライミングは奥の深い頭を使う作業である。細かい作業の連続であり、どこでセルフを取るか、どこを持って足を置き、次につなげていくか考えてやっていかなければいけない。やみくもに行くと登れずパニックになってしまう。クライミングを経験することで、登山で岩稜帯を歩く時にも恐怖心なく進むことができたりバランスのとり方など学べる。今回、ヘルメットに直撃する落石があったが事前に落ちる音もなく上部パ

ーティからのコールもない状況だった。落石には絶えず上部を注意するようにと教えていただいた。ロープの結び方や動作がもたついてしまう。“スピード=安全”と教えていただいたように、残り3回の経験でもう少しスムーズに、かつ安全に行動できるよう取り組んでいきたい。(S水:記)

<一口感想>

今回初めてゲレンデクライミングを体験して、クライミングのシステムの概要を理解することができた。自分はトップロープでの登攀だったので、三点確保に心がけ、意識を集中して登ることができた。クイックドロウを掛けながら登るリードクライミングや安全に注意しながらロープを出すビレイヤーの技術も習得していきたいと思った。シューズがワンサイズ大きめと店で言われていたが、右足が痛くなり待機時にかかとを外して足を休ませた。これに慣れるのも大変だと感じた。(T本)

高い所が苦手なので、クライミングの実技の前は少し緊張しました。ロープがあることで安心して登っていこうと思えたので、リードクライマーはすごいなあと思いました。

上へ行くことが精一杯で、目の前にある岩壁しか見えていませんでした。そのために、足や手の置き場が分からなくて進めなくなることがありました。次からは少し離れて足や手の置き場を探せるように心がけたいです。懸垂下降の練習は体が振られてしまうことがありました。ペタペタ歩くように下りるとよいと教えていただきました。

他にもできないことがばかりでしたが、講師、スタッフの皆さまのおかげで無事に1回目のクライミングの実技を終えることができました。ありがとうございました。(N村)

ずっとドキドキ、ワクワクでした。低山のハイキングでは、季節の花を見つけて名前を調べたり景色の美しさを楽しんだりしてきましたが、今回そんな余裕がほとんどありませんでした。

2ピッチめの(私にとって)難所を登れた後にチラッと見えた背景が美しいとは言え、自分が今つかまっている場所が思っていたよりはるかに高くてちょっとゾッとしました。

また、初心者であっても、自らの命を守るために、すべきことや、覚えておくべきことがたくさんあることを痛感しました。まだ本当の怖さも分かっておらず未熟ですが、ハイキングでは味わえない醍醐味を少しだけ知ってしまいました。ご指導に感謝します。(S口)

ピッチを細かく刻んだので他のパーティからだいぶ遅れてしまいご迷惑をおかけしました。今回落石に当たったN森氏の横にいたのですが、自分に当たったのかと思うくらい、横にいても衝撃がありました。小さな石でしたが落石の怖さを改めて認識しました。(G阿弥)

今回スタッフという立場での参加でしたが、忘れかけている事が有ったり勘違いしている事も有りました。これはクライミングに関してはものすごくリスクが高い事で、勘違いしてましたでは済まされない事だと思います。そう言った意味では知識の掘り起こしができ大変有意義な時間を過ごさせていただきました。人の命を預かる事も有りますので今後も精進していきたいと思います。

(K口)

岩場ではまず自分を守るため、セルフビレイを取ることが大切です。クライミングでは足で登ること、岩から身体を離してどこが登りやすいのかよく見ることです。また、スピードは安全です。慣れですが手際よく動作を覚えていくことが安全につながります。クライミング体験を越える練習になりましたが、現場に行かなくてもロープの結び方、ロープのたたみ方、道具類(ガチャやテープ類の適切な装着)など身体で覚えてください。(T内)

登山は全般にそうですが、クライミングは特に、刻々と変化する状況に適切に対応する必要があります。そのためには、結論ではなく、意味や原理の理解が大切になってきます。常に「なぜそうな

のか？」を考える姿勢は、登山の他の場面でも役立つと思います。これまでに先人が、犠牲も払いつつ安全のために創意工夫してきたシステムを理解すると、なるほどと感心させられます。受講生のみなさんには、講習の間に、そうした知的な楽しみも味わっていただければと思っています。(N森)

今回の初級登山教室、クライミングに何回か時間が割かれています。これを機にクライミングに興味を持って続けて行くのか、この講習会だけで終わってしまうのか、それは分かりませんが、山登りを続ける為の基本的な知識、技術等を身につけるには必要な事が沢山学べると思っています。

登攀能力やロープワークは勿論、特に危機意識の持ち方や危険察知能力等々、山登りを行う際にとっても重要な事も同時に学べると思っています。自身、決してクライミングは上手では無いですが、クライミングの講習会等で学んだ知識、技術は今も自分の山登りに生かされています。これから先、何年間も安全に楽しく山登りをする為にも、クライミングの講習内容を大事に学んで欲しいと思っています。(K嶋)



鹿島槍ヶ岳鎌尾根
雪山基礎講座 2022 (6)

木村敦子／比良雪稜会

日 程：2022年5月2日～5月4日(水)

講 師：秋田 誠(彷徨倶楽部)

スタッフ：内田 厚(彷徨倶楽部関東)、雨宮 千春(彷徨倶楽部関東)

受講生：其阿弥 道子(比良雪稜会)、木村 敦子(比良雪稜会)

雪山基礎講座 2022 の最終回は鹿島槍ヶ岳。聞けば5年連続、中止・敗退となっている因縁深い山。過去ルートは様々だった様だが、今回は事前準備会で講師から「登頂を最優先とする！」と並々ならぬ熱い使命感に満ちた檄が飛んだ。

5/2(月) 快晴

今回のテン泊は車横づけのオートキャンプだ。滋賀組はクーラーボックス、水 10L、炊飯用鍋等々、車の後席を倒して尚満載の物量で乗り込んだ。登山自体は日帰りです。当初の計画では、稜線からのブロック雪崩の危険が少ない鎌尾根ルートが計画されていたが、車で移動中に秋田さんから「雪の状況から西俣ルートに変更する可能性もある」旨連絡が入った。確かに西俣の方が等高線は緩いけど・・・。鎌尾根ってそんなキツイの？ ヤバいの？ 外の陽気とは裏腹に車中にどす黒い空気が立ち込めた。・・・食べるしかない。明日に備えて駒ヶ根 SA でソースカツ丼を喰らう。



すき焼き鍋に横たわる焼き豆腐と糸コンの海

大谷原に到着。まだ桜が咲いている。駐車場の桜の樹の下にテントを張る。今晚はすき焼き。そして恒例の自己紹介が始まる。今回初顔合わせの雨宮さんに注目。語られるエピソードから猛者っぷりがうかがわれた。心の中で「明日よろしくお願いします。」とそっと手を合わせる滋賀組だった。

5/3(火) 快晴

大谷原 3:30－西俣出合 4:30～4:40－鎌尾根取付き 5:20

－標高 2300m 11:30～12:30－布引沢出合 17:20～17:25

－大谷原 19:00

深夜起床。朝食は餅入り味噌汁。食担の其阿弥さん「すみません。寝坊しました。」と落ち着き払って登場。流石ベテランだ。テキパキと食事を割り振り予定通りに出発する。

1時間林道を歩き沢に出た。「西俣ってあそこ？」沢向こうの地形を確認しあう。秋田さんが渡渉ポイントを探しに行く。戻って来て一言。「鎌尾根にしよっか。靴脱ぐのイヤだし。冷たいし。」・・・空耳か？そんな理由で鎌尾根か？誰からも賛成とも反対とも意見が出ないまま、ふわふわと鎌尾根に向かう。遭難に向かうパーティの行動の決断と選択は、きっとこんな風に決まっていくなだろうなと思ひながら、自分一人だけでも生き残ろうと誓う。



藪にブチ切れ

ま、

堰堤の垂直梯子で腕の筋力を根こそぎ持っていかれ、次はブッシュ。細い灌木が蜘蛛の巣の様に張りめぐらされ、行く手を阻む。ザック、ストックが引っかかる度にイラっと感が募る。美しくも

厳しい雪山バリエーション(ｷｷｷ)! そんなオレ様イケてる(ｷｷｷ)とは大分違う様相だ。最後は力任せに枝をへし折り突破。・・・遙か先に鎌尾根が見えた。遠くに見える鎌尾根は、さほど急峻な感じもなく、「初心者向け」と言われるのも頷ける。でも、自分にとって容易なバリエーションなんて無い事も知っている。

いよいよ鎌尾根に取付く。雪は適度に締まりアイゼン、ピッケルが効いて歩きやすい。トップを交代しながら進んでいく。ここで女性陣、ド根性を見せる。なかなか交代宣言を出さず進んでいく。そんな中、トップ内田さん(スタッフ・男性)くると振り返って「交代(にっこり)」・・・早ないか?まだイケるっ!と思いつつ、前に出る。

ドーンと遠くて轟音。布引尾根の向こうで主稜線の雪庇が崩れた様だ。「・・・雪崩たねえ。」と妙に長閑に眺める。切れた垂直な雪面をトップ雨宮さんが華麗に登っていく。その後も終始ドハマりする事なく遅いペースながら確実に標高を上げていく。た



懸垂行きま～す。

だ、ギャップがある度、落ち込んだ先がどうなっているかが全く分からない。回り込んだ先がどうなっているか分からない。「どうか繋がっていてくれ」と祈る様な気持ちで進んで行った。主稜線は確実に近づいてきている。天気も安定している。時間もまだギリギリ間に合う。でも・・・、ついに来た。どう回り込んでもルートがない。雪が切れていた。・・・もう進めない。秋田さんから「撤退」の2文字が発せられた。11:30、2,300m地点。

下降を開始する。傾斜がキツイ為ロープを出す。最初2ピッチは灌木で支点を取るも、最後はスノーバーを雪面に打ち込む。スノーバーは練習では使った事があったが、その時は全く信用出来なかった。しかし、驚きの強度! 使い方をマスターしておきたいと思った。3ピッチ分高度を下げ、その後は長い長いバックステップでの下降。腰が砕けた。陽がだいぶ傾いた頃、布引沢出合に到着。「どこでも下りてこられるもんだね。」と秋田さんがポツリ。・・・秋田さんとだから無事に下りてこられました。その後長い長い林道を歩き、テン場に戻った。



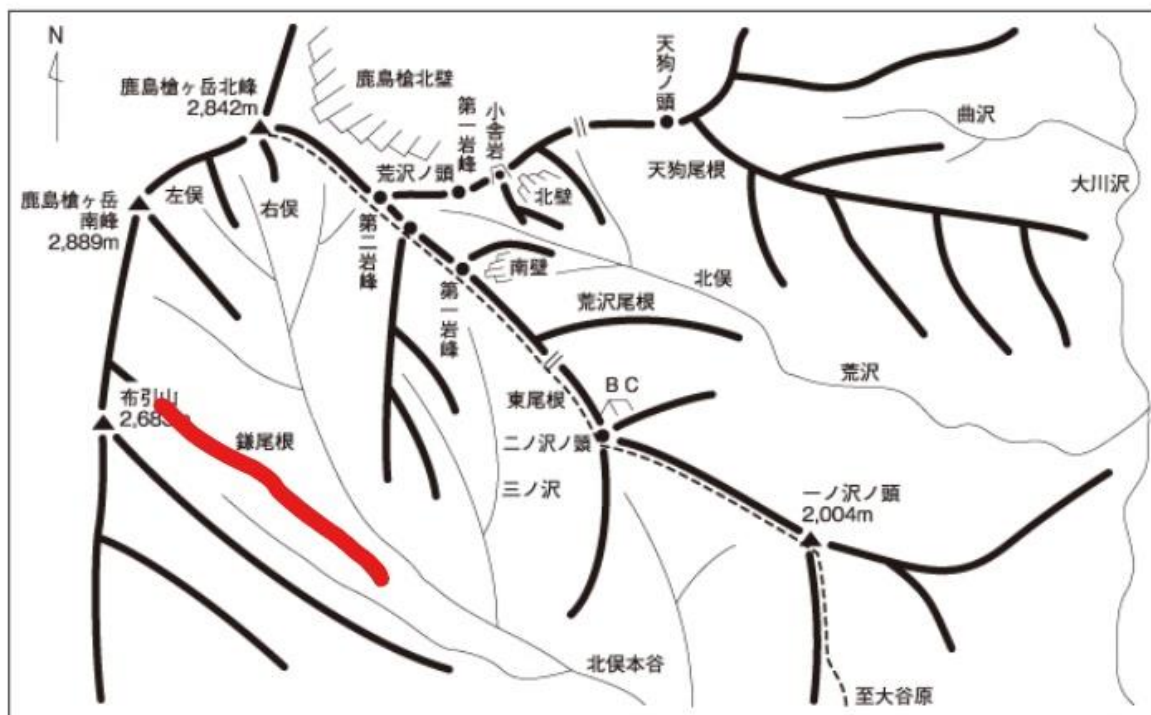
ナイフエッジで酸欠



バックステップで腰砕ける人達

5/4(水) 快晴

昨晩は泥の様に眠った。テントを出ると青空。内田さんがコーヒーを飲んでいて。いつもは下山後バタバタと挨拶もそこそこに解散となるが、今回は後泊のお陰で、のんびりとした朝を迎えられた。登頂は出来なかったが、皆少しほっとした様な、満足気な穏やかな表情だった。いつもと同じ様に他愛もない話して時間を過ごし、それぞれの帰路について。また、来年だな。



〔ひと口感想〕

☆共同食が素晴らしい内容でした。(其阿弥さん、木村さん、準備ありがとうございました。山であのようなご馳走初めてでした) 天気にも恵まれ、素晴らしい展望を楽しめました。途中敗退も貴重な体験になりました。(雨宮 千春)

☆今回も鹿島槍登頂ならず。しかし、登頂以上のたくさんの収穫があった山行になりました。常に「転けてはいけない」と言われ続けていましたが、本当にそうです！確実にステップを刻めように普段の歩行が如何に大切か思い知った山でした。晴天に恵まれて景色は素晴らしかったのですが、なかなか後ろを振り返る勇気がありませんでした。次は景色もしっかり楽しめるようになりたいです。(其阿弥 道子)

☆緊張の連続でした。交代でトップを歩かせて頂いたのも良い経験になりました。秋田さん、内田さん、雨宮さん、本当にお世話になりました。其阿弥さん、お疲れ様でした！ありがとうございます。皆さん、来年も鎌尾根で！(木村 敦子)

☆雪は道なり。平凡な藪尾根もひと度雪を纏うと素晴らしい登攀ルートに変貌します。鎌尾根はそのようなルートの一つです。北股本谷からアプローチするルートでは、南峰に直接突き上げるダイレクト尾根も有名です。難易度で鎌尾根<ダイレクト尾根とされていますが、その根拠はロープを使う頻度です。積雪が安定している場合、鎌尾根は主稜線の雪庇の乗越しでロープを使うだけです。それに比べてダイレクト尾根はロープの使用頻度が高く、かつアプローチで雪崩のリスクもより高いので困難度が高く評価されています。しかし、実際の雪稜登攀で文献の評価通りに登れることは例外的です。天候と時期によって雪の安定度が大きく異なるからです。雪のコブの向こうはどうなっているんだろう？ 雪庇？ 雪壁？ クレバス？ 岩場露出？ キドキ、ワクワク。極端な表現をすれば、雪稜は知力（経験）、体力、技術、ときには運も動員して登ります。今回のような撤退も珍しくありません。そして安全な撤退のためには、決断のタイミングと撤退ルート選択が重要です。バリエーション・ルートから積雪期の鹿島槍ヶ岳に立つという企ては宿題になりましたが、痩せた雪稜でのルート選択、スノーバー支点的懸垂下降、バックステップ下降など、今後役に立つ経験を沢山されたことと思います。また来シーズン、キドキ、ワクワクの雪山を一緒にしましょう。(秋田 誠)

ぐうたら会長のつぶやき

清掃登山の季節になりました。滋賀で始められた清掃登山も全国に広がって6月の環境月間の基にもなった活動です。長い間続けてくるとマンネリ化も進みますが、それでも一つ一つ工夫をして、古い皮袋に新しいワインを入れるような活動を続けて行く事も必要だと思います。

7月9、10日で全国連盟の自然保護講演会が滋賀で行われます。その後ウインドファーム建設予定地を視察する予定です。先日その建設予定地の新庄ウインドファームの森の木79本が、環境省の巨木データベースに登録されたそうです。ただ残念な事に登録されたからと言って伐採を禁止する事はできません。いま署名活動も行われているようです。すでに動き始めた計画ですから伐採を止める事は難しいかもしれませんが、何本かでも良いので残してもらえるように署名に協力してもらえればと思います。

温暖化対策で化石燃料から自然由来のエネルギーへの転換は必要な事ではありますが、そのために森林を大規模に伐採して建設するのは疑問を感じます。自然環境とバランスをとった開発計画が立てられると良いのですが難しい問題です。

私の幼い頃は、朝起きたら井戸まで水汲みに行くのが日課でした。テレビも朝、昼、夜と細切れで放送されていました。今の便利な生活を昔に戻す必要はありませんが、無駄なエネルギーを使わないように工夫することは出来ると思います。テレビって24時間放送する必要がありますかネ。暖房も冷房も、1度下げるだけで、かなりのエネルギー節約になると思います。一人ひとりが心掛けて生活したいものです。

コロナが続いていますが、感染対策をしっかりして新緑の山に行きましょう。

先日近江高島の近くにある三尾山と長法寺跡を訪ねました。遥か昔まだ長法寺があった頃に、参拝に使われていた古道だと思います。枯葉が積もり私のように膝に痛みのある人間には優しい道でした。長法寺跡までもしっかりした道が残っていました。また、長法寺城という城もあったようで、城跡へ行く道標もありました。高島市が以前「〇〇の森」として一部を整備していたようで、その時の看板が朽ちて落ちていました。昔の道は今の道と違ってとても歩き易く登り易い道になっています。ただただ効率だけを考えた道ではなく、少し一息つくところ、顔を上げて景色を眺めるところなど、人に優しい道になっています。歩くしか手段の無かった昔の人のほうが、車という箱に乗って移動する今の人間より、はるかに上手に自然を利用しているなと感じました。どんな低い山でも思わぬ歴史が秘められているものだと思います。今からは色々な地域の山々の麓の低い山を見直して歩いてみようと思います。ただし道が無いと少し辛いかな・・・。

友永

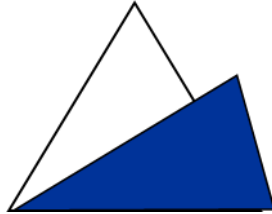
月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名
				4	清掃登山「伊吹山」	山友
				4	大御影山(例会・交流山行)	彷徨
	8	初級座学(レスキュー入門)		5	清掃登山「南比良2コース」	雪稜
	11-12	ステップアップ登山講座2022(2)		5	鈴鹿「高室山」	ちご
		八ヶ岳・天狗尾根～赤岳(CSS)		10-12	光岳	彷徨
	14	座学・入門登山教室		11	福井・ホノケ山	彷徨
	15	第4回理事会(メール)		12	荒島岳	雪稜
6						
				19	鈴鹿峠～安楽越	雪稜
				19	交流山行「野坂山自然観察会」	山友
				25-26	北海道の山	彷徨
	25	初級実技(レスキュー入門)田上山		26	八部例会「朽木針畑高島トレイル」	山友
				19or26	おまかせ山行	ちご
	6	第5回理事会(メール)				
				9-10	加賀大日山～越前大日山	彷徨
	12	座学・入門登山教室		10	比良コヤマノ岳	ちご
	13	初級座学(沢登り入門)				
7						
	23	初級実技(沢登り)比良八淵の滝				
				27-29	夏山(行先未定)	ちご
				29-31	妙高火打山～焼山	彷徨
				30	夏山集中(上高地・徳沢)	山友
	30-31	ステップアップ登山講座2022(3) 北アルプス・餓鬼岳、唐沢岳(CSS)				
				7	ソーメン山行(隠れ滝)	ちご
				11-15	鷲羽岳・水晶岳	彷徨
8			8			
	24	初級座学(クライミング入門)		21	二の谷(夏エビネ)	ちご
	27-28	ステップアップ登山講座2022(4) 奥秩父・笛吹川東沢釜ノ沢				

会名略号 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会
 シャク:シャクナゲ溯行クラブ、彷徨:彷徨倶楽部
 スキーネット;山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀 初級:初級登山教室

お詫びと5月号の訂正

- ・目次にある初級入門・座学登山教室は「初級 入門・座学登山教室」です。
- ・初級講座の講師は谷内さんではなく「信森さん」でした。

お詫びして訂正いたします。 編集担当 藤野



2年7月号の原稿は、6月15日〆切です。

原稿の投稿先は 藤野 kawahaakebono@gmail.com

菅 nokomama.2016@gmail.com

用紙サイズは A4、フォントは本文 11~12、タイトル 14~16、

余白は上下左右 19mmとし、

使用する写真は 200KB 以内としてください。

ワード版とPDF版でお送り下さい。

皆様ご協力をお願いいたします。

『県連ニュース2022年6月 NO.539号』

発行日：2022年5月20日

滋賀県勤労者山岳連盟

TEL 080-4971-6231

〒520-0047

Email shigarosan@gmail.com

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F

ゆうちょ銀行(店名418)

大津市市民活動センタースモールオフィス内

普通 0239956

メールボックス NO13

<http://shigarousan.jimdo.com/>

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 藤野 健太郎 菅 泉